



● ● ● 特別企画展関連イベント ● ● ●

東京家政大学創立140周年記念シンポジウム 「裁縫雛形が語る女性の学びと装い」



2021年11月6日(土) 13:00 ~ 15:30

一般の方も無料でご視聴いただけます

開催方法：オンライン開催（Zoomウェビナーによるリアルタイム配信）

視聴方法：事前登録制 当館HP「イベント」ページより登録を行ってください。

(URL : https://www.tokyo-kasei.ac.jp/academics/museum/event/about_exhibition.html)

受付開始：2021年10月22日(金) 10:00 ~ ※定員(500名)に達した時点で終了



タイムテーブル

13:00 開会 [開会の辞、趣旨説明]

--- 第1部 基調講演 ---

13:10-13:50

難波知子氏（お茶の水女子大学准教授）
「明治・大正期における女学生の装い
—女袴の考案と改良を中心に—」

--- 第2部 「裁縫雛形研究」報告会 ---

14:00-14:10

趣旨説明及び令和3年度テーマ「生地」について

14:10-14:25

濱田仁美（本学服飾美術学科教授）
「綿織物のバリエーションを捉える：
素材・織物特性の調査・分析」

14:25-14:40

金子真希（本学服飾美術学科講師）
「絹織物を綿織物で代用した雛形製作の
有効性について：和服雛形製作による検証」

14:40-14:55

杉野公子（本学服飾美術学科准教授）
「毛織物を綿織物で代用した雛形製作の
有効性について：洋服雛形製作による検証」

15:00-15:25 意見交換・質疑応答

15:30 閉会



基調講演 講師プロフィール

なんば ともこ
難波 知子

お茶の水女子大学基幹研究院人文科学系
生活科学部人間生活学科 准教授

主な研究テーマは、近現代日本における学校制服の変遷および女性の衣生活の変容について。主な著作に、『学校制服の文化史—日本近代における女子生徒服装の変遷』（創元社、2012年）、『近代日本学校制服図録』（創元社、2016年）がある。



● ● ● 裁縫雛形とは ● ● ●

裁縫雛形は、明治から昭和時代にかけて裁縫の練習のために製作された、衣服や生活用品等のミニチュアです。本学の校祖 渡邊辰五郎が考案した裁縫教授法のひとつであり、材料が節約でき、短期間で多種多様な衣服の作り方を学べる方法として教育界の注目を集めました。

「裁縫雛形研究」は、①自校史研究の促進、②収蔵資料の利活用、③研究成果の可視化・体系化および発信等を目的としています。



 東京家政大学博物館

